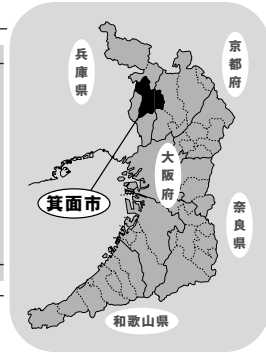
わたしのまちのPR（ピーアール）

箕面市編



箕面市は、大阪府の北部に位置し、市域の北部と中部は緑豊かな山間部であり、南部には市街地が形成され、大阪都市圏のベットタウン、閑静な高級住宅地として発展しています。

箕面森町（水と緑の健康都市）のまちびらきや、彩都（国際文化公園都市）の開発が進むなど、新しいまちの整備が進んでいます。

また、古くから紅葉の名所として有名であり、年間約120万人の観光客が訪れています。

この箕面市の特徴や強みといった事について、市長公室総務次長兼政策企画課長の藤迫さんにお話をお聞きしてきました。

本日はどうぞよろしくお願いします。
早速ですが、箕面市の歴史について教えていただけますか。

よろしくお願いします。

本市南西部では3000～6000年前の土器と石器が見つかっていることから、縄文時代前期にはこの周辺で人が生活していたことが伺えます。

さらに、稲穂刈りに使用した石包丁や住居跡、銅鐸が見つかり、本市域内も弥生時代には稲作が行われ、ムラが形成されていました。

奈良時代以降は、本市南部を通る山陽道が整備され、萱野地区内に「草野駅（かやののうまや）」、箕面地区に「豊島牧（てしままき）」、瀬川・半町（はんじょ）地区には本陣や旅宿が置かれたことから、人々が行きかうにぎやかなまちになりました。

駅（うまや）…中央と地方との連絡のために街道筋の30里（約16㎞）ごとに置かれた施設。
牧（まき）　…牛馬を放し飼いにするところ。牧場。

また、鎌倉時代から山間部が近くにあることから林業、特に製炭が盛んになりました。江戸時代に入ると、製炭だけでなく果樹生産や酒造米の生産を中心に農業も発展しました。

明治時代初頭の数年間、本市の一部は兵庫県の管轄になる時期もありましたが、明治43年３月には箕面有馬電気軌道（阪急電鉄）が開通したことから住宅街ができ、人口も年を追うごとに増加し、そして昭和31年12月１日に府内24番目の市として本市が誕生しました。

箕面市と言えばもみじが有名ですが、紅葉を楽しむにはどこがいいでしょうか。

本市の木にもなっている**いろはもみじ**は、春から夏は色鮮やかな緑色に、秋には赤・黄などの茜色に山々が染まります。**「みどりとあかね」**が本市の自然を象徴する言葉です。

これらを楽しむスポットは、昭和42年に明治百年を記念し国定公園に指定された**明治の森箕面国定公園**内に数多くあります。この国定公園は府営箕面公園を含む963 haと広大であり、大都市近郊にありながら、1,000種以上の植物と3,000種の昆虫を数える「自然の宝庫」でもあります。四季を通じて自然観察ができますし、ハイキングにも最適です。

紅葉のスポットとしては、公園の入口から続く**滝道**と**箕面大滝**の周辺は絶景です。

箕面大滝

11月の１ヶ月間は、もみじまつりの開催に合わせて、全国から約40万人の方が訪れ、紅葉を楽しまれています。

箕面大滝は、「日本の滝百選」にも選定されています。滝と紅葉の調和は、すばらしい自然の絵画のようであり、滝の澄んだ音と相俟って気分を和らげ時が過ぎるのを忘れさせてくれます。

今から来年の紅葉のシーズンが楽しみです。
この他に、お薦めの名所・旧跡などの観光スポットを教えていただけますか。

まず、西国23番札所の**勝尾寺**です。清和天皇から「勝王寺」の寺号（じごう）を賜ったのですが、寺側は王を尾の字に控え、以来「勝尾寺」と号しています。この寺には境界を明示するために、周囲８箇所に鎌倉時代の1230年に作られた４体の四天王像と４体の明王像を埋納しています。これは**八天石蔵**と呼ばれ、国の重要文化財になっています。

次に市街地でのスポットとしては、年末の今頃では赤穂浪士に関係のあるところはいかがでしょうか。

俳人としても有名である48番目の赤穂浪士萱野三平は本市の萱野地区の生まれです。その旧邸は**「萱野三平記念館 涓泉亭（けんせんてい）」**として公開されています。涓泉とは彼の俳号から名前を採っています。父より仇討ちのための江戸行きが許されず“忠と孝”の間で思い悩み27歳で自害した三平の時世の句を刻んだ句碑や多くの資料が展示されています。

萱野三平記念館涓泉亭

この他、**桜ヶ丘洋館通り**には、大正11年に日本で２番目の住宅展示場である「住宅改造博覧会」が開かれました。85年前に建設されたモダンな洋館が今も８棟残り、うち４棟は国の登録文化財に指定されています。閑静な住宅街の一角に洋風の大正浪漫あふれる家が建ち並んでいることから、平成９年には大阪まちなみ賞の特別賞も受賞したハイカラな通りです。

様々な時代の観光スポットが市域全域にありますね。それに、新しいまちもできましたね。

はい。**箕面森町（水と緑の健康都市）**は、ＰＦＩ事業手法による第１期整備が完了し、去る10月１日にまちびらきされました。

このまちは、多世代の方が互いに交流し、次世代の子どもたちをみんなで見守り育てる「多世代共生」。近隣の里山を守り、それをうまく生かすことで町に個性をプラスする。さらに自然エネルギーの活用など、自然と一緒に暮らす「環境共生」。ここで暮らす人々が楽しみながら交流する、地域との結びつきを体感する「地域共生」。これら“３つの共生”をコンセプトにしてまちづくりが進められています。

これだけを聞けば、都心からかなり離れたところにあるように聞こえますが、まちびらきに先駆け、５月30日に開通したトンネル**「箕面有料道路（箕面グリーンロード）」**を利用すれば、千里中央から車で約15分しかかかりません。

『都会から箕面トンネルを抜けるとそこは緑豊かな箕面森町だった』という生活は如何でしょうか。

箕面グリーンロード

また、ここでの本市の取組としては、現在の止々呂美小・中学校を箕面森町に新築移転し、府内の公立学校では初めての施設一体型小中一貫校として、来年４月に開校することが挙げられます。

この小・中学校は、本市の小中一貫教育のモデル校であり、人数には制限がありますが、市内のどこからでも就学を認める特認校に指定しました。

自然に囲まれた環境で、９年間の一貫教育を行う

ことにより、確かな学力と人間性豊かでたくましい心身を育み、未来の拓く人間力を培っていきたいと考えています。

箕面森町以外では、本市東部に**彩都（国際文化公園都市）**の西部地区が位置しており、これから本格的に整備されていきます。これにより、本市に新しいまちがもうひとつ誕生します。

箕面市の新たな歴史を作るまちとして発展されることを期待します。

話は変わりますが、箕面市は市民活動が盛んですね。

まず、かやの中央地区では、市民の手で、平成16年に**まんどろ火祭り**が復活しました。

この祭りは、里山文化や愛宕信仰が関係したものであり、昔は旧萱野の村々ごとにお盆の時期に行われていました。始まりは正確にはわからないのですが、300年以上の歴史があると言われています。

平成15年10月にまちびらきされたかやの中央で、「伝統行事を行うことで、まち育てを実施しよう」「箕面の歴史や文化を振り返り、その良さをまちづくりに活かしていこう」という考えのもと、毎年８月中旬に行われています。

まんどろ火祭り

七日市

今年もたくさんの来場者でにぎわい、伝統行事が新しいまちの風物詩になっています。

この他には、平成17年２月に、中心市街地のまちづくり会社として**「箕面わいわい株式会社」**が設立され、中心市街地活性化のため、様々な取組を行っています。

特に平成17年７月から商工会議所や地元商業者と連携して開催している**「七日市」**は、宝くじ発祥の地として有名な**瀧安寺**（りゅうあんじ）で毎月７日の護摩供の日、門前に市が立つほどにぎわったと伝えられるものを復活させたものです。この日は、箕面駅周辺や滝道の商店街で、一店逸品を意識したお買い得商品や限定商品等を販売しています。この市を楽しみされているリピーターが着実に増加しており、益々のにぎわいが期待されます。

また、今年の10月には、市内の名所やグルメ情報だけでなく、地元の人にもあまり知られていない話題を盛り込んだ無料の地域情報誌**「ｃｏｍｉｍｉ（コミミ）」**を創刊しました。

ｃｏｍｉｍｉとは、communication minoh mini-magazineの略ですが、小耳にはさんだ楽しい話題を掲載したいという思い込められています。

創刊号は「箕面の瀧へ行こう！」をテーマに滝道周辺の魅力や箕面駅周辺のお店などを掲載しています。さらに、観光にも役立つように箕面駅周辺のバス案内も掲載していますので、ぜひご覧ください。

これら市民の力を活かした取組はありますか。

箕面の魅力を再発見・発信・創造することを目的に、市民の皆さんから映画やドラマのロケふさわしいスポットを投稿していただき、それをデータベース化し、ロケの誘致を図るためのウェブサイト**「シーニックタウンみのお」**を開設しました。市民の皆さんから寄せられた情報の写真を掲載しています。

ロケーションスポットのデータベースですが、箕面のすばらしい風景がたくさんつまったウェブサイトになっています。

昨年秋には、『０（ゼロ）からの風』という映画のロケが、本市の様々な場所で行われました。

「私だけが知っているけど、皆さんにも知ってほしい風景」や「身近すぎて何も感じなかったけど、よく見てみると結構素敵だなと思う風景」などがあれば、箕面市民でない方でもぜひ投稿してください。

ホームページアドレス　http://scenic.minoh.net/

市民が中心となって、まちの活性化に取り組まれているのですね。

最後に、今後のまちづくりについて教えていただけますか。

本市では、平成23年度から始まる次期総合計画の基本構想の策定に向け、今年６月から**箕面市民会議**の活動が始まりました。

市民会議

これは、箕面市の将来について市民と行政が一緒に考え、ずっと住み続けたい、夢のある将来都市「みのお」を実現しようとするものです。

市民参加者35名、公募職員26名の体制でスタートした市民会議は、全体会議で運営ルールの検討や現在の第四次総合計画の検証を行うことから始めましたが、当初はなかなか議論がまとまりませんでした。

しかし、個別勉強会や学識経験者を招いての講演会などを通して、皆さんが大きなまちづくりの方向性を共有することができ、現在は、テーマごとに６つの分科会に分かれて、具体的な検討を重ねています。

「‘元気’みのお～人がげんき、まちがげんき、山がげんき～」という分科会では、「元気」というキーワードのもと、箕面の将来を魅力あるものにするために検討を重ねています。

「人と人が関わり、人が育つ」分科会では、地域で活動している団体にお話を伺い、課題項目の整理を行う予定です。

「ひとが育てる環境」分科会では、「快適環境づくり報告書」の学習や、環境ラウンドテーブルの開催等の活動を進めています。

「命の森を豊かにする、安心して暮らせるまちづくり」分科会では、医療・健康・福祉等に携わる各種団体から意見聴取を行い、課題を抽出しようとしています。

「市民主体のまちづくり」分科会では、「ツリーマップ」の作成という手法を通して市民主体の参加型まちづくりを考えています。

「箕面市の経営改革ービジョンと戦略」分科会では、箕面市の財政状況や他市の経営改革事例を学習し、実現可能な施策の提言をめざしています。

また、これらの分科会とは別に、市民会議の運営を担う**世話人会**が立ち上がりました。これにより、企画・運営についても市民が主体的に実施していくことになっています。

これらの活動を通して、今後10年の間にめざすべきまちの姿・方向性についてさらに検討を重ね、来年秋ごろに基本構想策定に向けた提言書が市に提出される予定です。その提言を受けて、次期総合計画がより多くの市民から賛同が得られるようなものにしたいと考えています。

次に、「生涯学習都市みのおの実現」という観点から、大阪大学、大阪青山大学・大阪青山短期大学、千里金蘭大学と**包括協定**を結び、教育・研究、国際交流、まちづくりなどの分野において連携協力し、地域の発展と人材の育成を推進しています。

また、専門的な学習を系統的に行い、地域の課題解決に向け活躍する人材の養成につなげていく学習機会として、（仮称）**市民大学**を開設することを検討しています。

他にも、箕面らしい景観のまちづくりを推進するため、都市景観基本計画を見直し、来年４月から施行される景観法に基づく**「景観計画」**の策定と**「都市景観条例」**の全面改正をこの10月に行いました。

景観計画が適用される地域では、地域で親しまれる建築物を指定し保全することや、ＮＰＯや公益団体を指定し、市民の主体的な景観形成の取組を法的に支援することが可能となります。

さらに、都市景観条例では都市景観アドバイザー制度など市独自の支援策を新たに定めました。

今後は、この計画と条例を車の両輪として、箕面の山なみと街なみを守り育んでいきます。

最後に、『市民参加から市民協働へ』、市民と行政が手を携えて、次代を担う子どもたちに胸を張って引き継げるすばらしい箕面のまちづくりを進めていきたいと考えています。

今後、市民の皆さんとともにまちの魅力を高め、発展されることを期待しております。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。